上田 映美 准教授
博士(保健学)
Terumi Ueda
✉ terumi.ueda@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword 看護技術、がん看護学、老年看護学

プロフィール
2007年　金沢大学附属病院 看護部
2014年　金沢大学 医薬保健研究域 保健学系 研究員
2016年　金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 博士後期課程 修了
2018年　公立小松大学 保健医療学部 看護学科 助教

研究分野
看護学 / 臨床看護学

所属学協会
看護理工学会、看護実践学会、日本看護科学学会、日本創傷治癒学会、日本褥瘡学会、
国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会、日本創傷・オストミー・失禁管理学会

専門分野・研究分野

足のむくみに対するケアは、面倒でお金がかかり放置されることが多かった

足のむくみは、様々な原因により発生する。看護分野では、がんの手術等により発生するリンパ浮腫や、高齢者が車椅子等で長時間座ったままの姿勢をとることにより発生する浮腫などが、その人の生活に支障を与える理由から問題視されている。しかし、むくみの研究は生命に直接影響を与えないことから、ほとんど進んでいないのが現状である。新しい足のむくみのケア方法を開発し、「どうせ治らない」とケアすることを諦めていた人たちを救うことを目的として、研究に取り組んでいる。

研究内容

高齢者の足のむくみ(下腿浮腫)を軽減する圧迫商品の開発

施設で生活する高齢者は、寝たきりを予防するために長時間座って生活することが多い。足を下垂しているため、重力の影響で下腿に水分が貯留し、浮腫が発生する。写真は浮腫が発生した高齢者の下腿であり、足の甲が腫れて靴が履けなくなってしまっている。

下腿浮腫に対しては、圧力の強い靴下やストッキングを履く圧迫療法が有効であるが、高齢者施設ではほとんど実施されていない。現在取り組んでいる研究は、高齢者施設で、圧迫療法が行われない理由や施設側の圧迫商品に対するニーズを調査し、それらの施設でも簡便に利用できる圧迫商品を開発することである。その他にも、看護の分野を超えて、理工学分野と連携しながら新しい下腿浮腫の評価方法を開発したり、圧迫以外の新たな浮腫軽減方法を開発したりすることに挑戦している。

図1

シーズ・地域連携テーマ例
- 下腿浮腫に対する圧迫商品の開発、実証実験
- 下腿浮腫の評価ができる機器の開発

受賞
- 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会 功労賞（2020年）

論文
- 健康女性におけるセラミックボールを用いた足温機器の下腿静脈還流促進効果と安全性の検証，上田映美他，リンパ浮腫管理の研究と実践，10(1)，1-7，2022年4月
- Effects of vibration on chronic leg edema in chair-bound older adults: A pilot trial, Ueda T他, Lymphedema Research and Practice, 9(1), 14-24, 2022年1月
- Objective assessment of leg edema using ultrasonography with a gel pad, Iuchi T他, PLOS One, 12(8) e0182042, 2017年8月

書籍等出版物
- リンパ浮腫における弾性ストッキング（翻訳）　井内映美他　MEP Ltd　2013年9月
- リンパ浮腫診断治療指針　井内映美 他　株式会社メディカルトリビューン　2013年9月

講演・口頭発表等
- 足背部浮腫に対する最適な圧迫圧の検討―健康女性による症例研究―，上田映美，第52回創傷治癒学会，2022年11月

競争的資金等の研究課題
- 履くだけで足背部浮腫を改善する介護負担に配慮した室内靴の開発，日本学術振興会，科学研究費助成事業　若手研究，2020年4月－2023年3月
- 近赤外光法で足背部浮腫の間質液量を評価する新しい機器の開発，テルモ生命科学復興財団　研究助成　看護研究，2022年

社会貢献活動
- 日本褥瘡学会・日本褥瘡学会教育委員会ガイドライン策定作業部会（2018年7月－）
- 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会・論文賞選考委員会（2019年4月－）
- 日本看護科学学会・日本科学学会和文誌専任査読委員（2019年9月－）